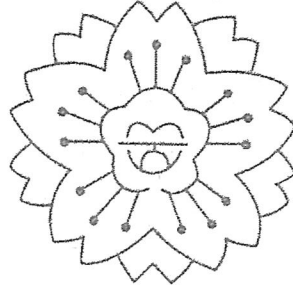


平成30年度

学校活動報告



<学校長あいさつ>

平成30年度も間もなく終わろうとしています。今年度も1年間、PTA 役員をはじめ学校運営協議会や学援隊の方々等、保護者や地域の皆様に多方面に渡って支えていただきました。お陰様で落ち着いた教育活動を、年間を通して行うことができました。心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

特に国際情勢の不安定な一年でありましたし、自然環境も厳しく多くの災害が日本の様々な地方に起こった年でもありました。AI の技術革新やネット社会での問題も顕在化し、急激な社会変化を感じる中、これからの未来を生きぬくために教育は何ができるのか？を問われる毎日でもありました。

私は、子どもたちに折に触れ3つのことを伝えていました。一つ目は「あいさつ」の大切さです。二つ目は「自分から」行動をおこすこと、三つめは「思いやり、協力」です。挨拶は勿論コミュニケーションの基本であり、相手に心を開いていることが前提となります。「自分から」を意識することは自主性・主体性を促します。「思いやり・協力」は、多様性の中で共生していくために欠くことのできないものと思っています。

子どもたちは、日々の学習や運動会などの行事でも、宿泊体験学習や校外学習でも持てる力を精一杯輝かせてたくましい成長を見せてくれました。授業参観や学習発表会などで感じていただけたのではないかと思います。子どもたちの成長は私たち教職員にとっては何よりも嬉しいことです。

6年間を通して、教職員がチームとなって、子どもたちに育てて欲しい力、身に付けて欲しい資質を十分に蓄え、6年生の卒業式へと導いていくことが私たちの務めと思っております。間もなく立派な卒業生が今年も春にこの桜岡小学校を飛び立ちます。

一年間、本当にありがとうございました。

- 1 学校教育活動の報告
 - (1) 「確かな学力の育成」推進プラン報告
 - (2) 「豊かな心の育成」推進プラン報告
 - (3) 「健やかな体の育成」推進プラン報告
 - (4) 学校評価アンケート報告
- 2 来年度の学校年間計画

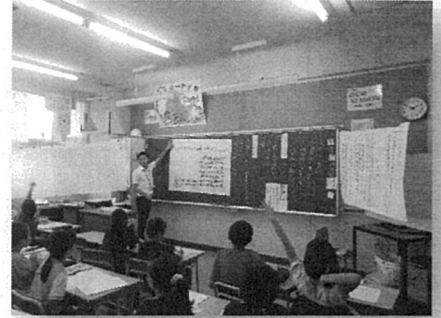
横浜市立桜岡小学校

「確かな学力の育成」推進プラン（報告）

1 相手と目的を意識した言語活動

国語科を中心に、相手と目的を意識した言語活動を通して確実な学力の向上を目指す。

子ども達の実態把握をしっかりと行うことで、身につけさせたい力を明確にし、目指す姿に迫るための言語活動を設定することができた。また、子ども達が、「伝え合いたい。」と思えるような題材を選定することで、子ども達の意欲が高まり「相手」と「目的」をしっかりと意識ながら学習できるようになった。



2 学習過程・学び合いの工夫

学習過程の工夫、学び合いの環境づくり、学び合いの仕方を工夫する。

子ども達一人一人が学習課題を理解して、自分の考えをもつことができるように、学習や活動を支える掲示物や板書、ワークシートの工夫を行った。また、話し合いのルールや話し形の提示、教師によるデモンストレーションなど、どのように活動すればよいのか視覚化された授業が多く、子ども達が安心して伝え合う活動ができた。伝え合う場の設定においても、ペア学習やグループ学習が効果的に取り入れられ、積極的に伝え合う姿が多く見られた。



3 学習状況調査や日々の指導の活用

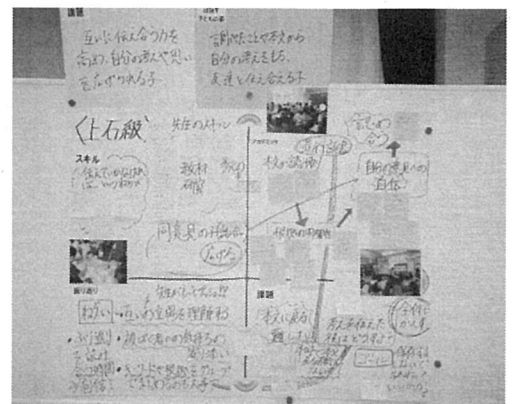
学習状況調査の結果や実際の指導から課題を見つけ指導に生かす。

4 授業評価・授業改善システムの活用

授業評価・授業改善システムを活用して授業改善を図る。

先行授業を行うことにより、教材・教具、場の設定、発問など、児童の実態に合わせた授業を展開することができた。

また、授業後にレインボーシートで研究討議を行い、授業評価カードのアカデミックとスキルのつながりを明確にすることで、問題点や改善点を具体的にすることができ、次時の授業の改善へとつながった。

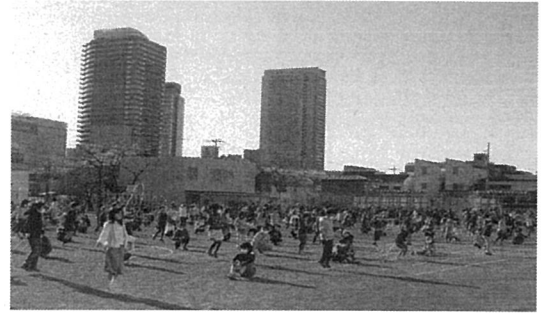


「健やかな体の育成」推進プラン（報告）

1 1校1実践の取り組み「なわとびタイム」

火曜日の全校朝会の時間を活用して、全校児童が一斉になわとびに取り組んだ。

6年目を迎えたこの活動は、子どもたちの朝の体育的活動の1つとして定着している。今年度もなわとび運動への意欲付けはもちろん、児童がすばやく隊形移動ができるようになったり、お互いに数を数え合ったりするなど、主体的に活動する姿が多く見られた。さらに、技能面の高まりも少しずつ見られ、継続して行ってきた成果が見られた。



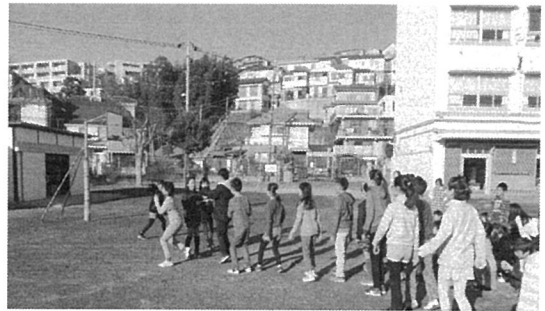
2 運動集会「長縄集会」「マラソンタイム」

児童運動委員会が企画した運動集会に全校で取り組んだ。今年度は、「長縄跳び」と「マラソン」の集会を企画し、全校で盛り上がった。記録カードに残していくことで、自己の成長を振り返ることができた。

また、活動を通して異学年で交流する姿が見られ、全校で取り組んでいるという意識が高まった。

①「つながったね！みんなの心♡～長縄集会～」

毎年行っている運動集会。3分間で何回跳べたかをクラスの記録とするもので、今年度もクラスごとに立てた目標に向けて休み時間、運動に取り組む姿が見られた。日に日にクラス記録も伸ばしていった。また、声をかけ合う回数が増えるので、クラスの仲も深まった。



②「めざせ京急線制覇！ 桜岡マラソン2019」

今年度は、2月に「マラソンタイム」を設定した。身近な京急線の路線図を活用し、実際の距離でマラソンカードを作成したことで、全校が意欲的に活動した。今回は、「長い距離を走り続けること」でなく、「自分の体力に合わせて走る」ということに力を入れた。自分自身と向き合い、運動する機会ができたことで、運動の得手不得手に関わらずみんなで楽しみながら走る様子が見られた。



3 学校保健委員会

「こころはればれ、すこやかな体、みんな笑顔だ、さくらっこ！～みつめよう 自分の生活～」

今年度は、年間を通して自分のこころと体を見つめてきた。年2回開催の学校保健委員会では、健康でいるには「すいみん」「食事」「運動」「こころ」の4つが全て関わっていて、とても大切であるということを知り、日常生活がより充実したものとなるよう取り組んだ。学校保健委員会からの発信を深めることで、全校が「こころはればれ、すこやかな体」に近づきつつある。



「豊かな心の育成」推進プラン（報告）

1 「特別の教科 道徳」の充実

「特別の教科 道徳」の指導を中心に、子どもがよりよく生きようとする道徳的実践力を身に付ける。また、全学級の道徳授業公開を年1回以上行う。

「特別の教科 道徳」では、一人ひとりが自己を見つめ、友達の考えと自分の考えを比べながら、多様な考え方や感じ方を学べるよう取り組んでいる。自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう学習の工夫を行ってきた。さらに子どもたちが主体的に学べるよう「特別の教科道徳の時間」の充実を図っていきたい。



2 豊かな体験活動の充実

豊かな体験活動に取り組み、「なかよし活動」の充実を図る。

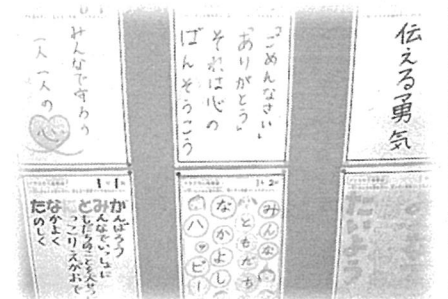
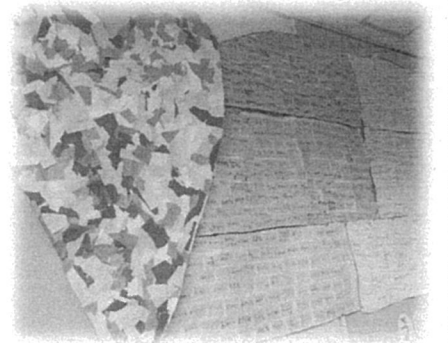
異学年交流「なかよし活動」をはじめて7年目になる。1・6年生、2・4年生、3・5年生の組み合わせで、バディを組み様々な活動を通して、人との関わりや自己を見つめ、自尊感情を高められるよう多様な体験活動を行ってきた。自分との関わりを明確にし、主体的に取り組めるよう取り組んできた。上級生の優しい声かけで、互いに相手意識をもって接する姿がたくさんみられてきた。



3 確かな人権感覚・意識の育成

人権尊重の精神を基盤とする学校づくりを行うため、人権週間で人権の視点を意識した授業づくりや各クラス標語づくりに取り組む。

- ・「人の気持ちを考えて行動するようにしていますか」「あいさつを自分からしていますか」のアンケートの項目では、9割近い子どもが「できている」「どちらかといえばしている」の項目を選ぶことができた。
- ・児童福祉委員会を中心に全校児童で「流れハート～うれしかった言葉・行動～」のテーマで、一人ひとりカードを作り、人権尊重の思いを込めて活動を行った。
- ・人権の視点を意識した授業づくりでは、今年度、全学年で他教科との関連を図りながら、人権・福祉教育、心の育成の充実を大切にした教育活動を行った。



平成30年度 学校評価アンケート 結果報告

先日お配りした学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。そこでいただいた結果を集計いたしましたので、ご報告いたします。今後もこの結果をもとに子どもたちのためによりよい教育活動に取り組んでまいります。

回答数351 回答率76%

A：そう思う B：だいたいそう思う C：あまりそう思わない D：そう思わない E：未回答

○「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」

評 価 項 目		A	B	C	D	E
1	学校は、学習の基礎・基本の定着を目指して指導している。	53%	46%	1%	0%	0%
2	学校は、授業を工夫して、子ども達に分かるように教えている。	51%	44%	4%	0%	1%
3	学校は、子ども達が、相手を思いやる言葉を使って生活できるよう指導している。	39%	52%	7%	0%	2%
4	学校は、様々な活動を通して、子ども達が集団の一員として協力し合って生活できるようにしている。	58%	41%	1%	0%	0%
5	学校は、なわとびタイムやロング休みなどを活用し、体力の向上を図っている。	56%	39%	4%	0%	1%

○「特別支援教育」「地域連携・学校運営協議会」「児童指導」「いじめへの対応」

評 価 項 目		A	B	C	D	E
6	学校は、一人ひとりの特性や支援ニーズに合わせた教育に努めている。	32%	54%	13%	0%	1%
7	学校は、学援隊や地域と協力して、子ども達の安全確保に努めている。	64%	32%	3%	0%	1%
8	学校は、学校行事や地域行事など、家庭や地域と連携して教育活動をしている。	56%	41%	3%	0%	0%
9	学校は、子ども達が落ち着いて気持ちよく生活できるように努めている。	42%	50%	7%	0%	1%
10	学校は、外部から講師を招くなどの体験的な活動から、これからの自分について考える機会を設けている。	44%	47%	7%	0%	2%

○ご家庭での様子について

評 価 項 目		A	B	C	D	E
11	家庭では、お子さんとの話し合いを大切にしている。	48%	48%	4%	0%	0%
12	家庭では、お子さんのよさや頑張りを認め、ほめている。	42%	49%	9%	0%	0%
13	家庭では、自分のことは自分でできるよう、自立心を育てている。	30%	62%	8%	0%	0%
14	家庭では、規則正しいリズムで生活できるようにしている。	33%	56%	11%	0%	0%

《集計結果より》

○今年度も全項目で A・B 合わせて 8 割以上の評価をいただきました。特に A・B 合わせて 9 割に上る項目もありました。このことから、本校の学校教育活動は、一定の成果を保護者、地域の方に認めていただいていると受け止めました。来年度はさらに、今年度の学校評価での課題をもとに、具体的な改善策を考えていきます。

・「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」について

アンケートをした全ての項目で A・B 合わせて 9 割を超える評価をいただきました。授業については、例年取り組んでいる国語科を中心にした校内重点研究を通して、基礎・基本の定着を目指すだけでなく、子どもたち同士の学び合いの時間を作ることで、さらに学びが定着したり、深まったりするなどの効果が表れたのではないかと受け止めました。また、授業中だけでなく、休み時間など教育活動全体を通して子どもたちが協力したり、体力の向上を図ったりする活動を取り入れたことも成果となって表れたと思います。

【評価項目 3】については A よりも B の方が上回っていました。次年度は、日頃の生活の中で相手を思いやる言葉を自然と交わせるよう学校全体で取り組んでいきたいと思いません。

・「特別支援教育」「地域連携・学校運営協議会」「児童指導」「いじめへの対応」について

【評価項目 7・8】については、A・B 合わせて 9 割を超えていました。各家庭や地域の方々のご協力をいただいたので、安全確保に努め、教育活動を進めることができたと感じております。今後も家庭や地域と連携しながら進めていきます。

【評価項目 9・10】については、A・B 合わせて 9 割以上の評価はいただいていたのですが、A よりも B の割合が上回っていました。今後は、A の割合が増えるよう職員で意識して取り組んでいきます。

【評価項目 6】については、C の割合がやや多かったです。今年度も児童支援専任を中心に一人ひとりに応じた支援を心がけてきました。また、元気カードを実施し、困っている児童には個別に対応し、すぐに解決できるよう指導してきました。今後は、さらに担任や児童支援専任、学校カウンセラーと連携を密にしたり、ご家庭での要望を丁寧に聞き取ったりしながら支援していきたいと思いません。

・ご家庭での様子について

この項目については、A と B の割合を比べると、同等もしくは B の方が上回る結果となりました。特に【評価項目 13】については B の割合が A の割合の 2 倍になっています。ただ、A・B 合わせて 9 割以上の結果にはなっています。どの項目についても、ご家庭で進んで取り組んでいただいていると思いますが、自立心を育む言葉かけをしていただけると、さらにお子さんの育ちが見られたり、学校と連携しやすくなったりするのではないかと思います。

【評価項目 14】では、C の割合が多くなっていました。学校でも、昨年度の学校保健委員会で早寝早起きについて子どもたちと考え、実際の生活に生かそうとする子も増えてきました。学校でも機会を見ながら声をかけていきますが、ご家庭でも声をかけていただくと、学校生活がさらに充実したものになると思いません。引き続きご協力をお願いいたします。